

公益信託世田谷まちづくりファンド

第25回助成事業 審査講評

はじめの一步部門

< 1-1 息・活・音 >

- ・鍵盤ハーモニカの演奏を通じて、暮らしやまちを生き生きとさせていこう――。

その発想はとても新鮮で素敵です。その思いを実現させるためには、ひとつは敷居の低い活動を心がけることが大事だと思います。演奏の手軽さ、身体への効果など楽器の特性は熟知されているのですから、そこを最大限にいかして、誰でも参加しやすいプログラム（機会）を用意してほしいと思います。

もうひとつは、鍵盤ハーモニカの演奏を必要とする人を求めることです。それにはみなさんの応募書にあったように、様々な催しに出かけて、いろいろな組織の人やグループと知り合って、自分たちのプログラムを最も届けたい人に出会う糸口をみつけてください。

- ・鍵盤ハーモニカは多くの方にとって馴染み深い楽器です。子供から大人までの異世代交流となる場を作って頂きたいと思います。また交流会等を通じて他団体との連携を積極的にしてください。
- ・鍵盤ハーモニカの特性を活かし、音楽を楽しみながら健康づくりにもつなげようというユニークな活動。今のファンド助成団体には音楽関係の団体が多いので、どのような取組があってどんな展開が考えられるのか？連携は可能なのかなどを考えるキッカケにしていただければと思います。

< 1-2 世田谷おはなしネットワーク >

- ・20周年記念のイベント、盛会をお祈りしております。ぜひ、本助成を単発のイベント費用としての活用に留まらず、今後、「大人のためのお

話会」という文化をどのように普及啓発していくのか？ そのための大きな一歩になるようなものに仕立てていただきたいと思います。そのために、このイベントで何を達成する必要があるでしょうか？ 参加者数という指標もありますが、「大人のためのお話会」の普及を一緒に担っていただける熱量の高い方を探し出す等、中長期の時間軸で、このイベントをどのように位置づけるのかを考えてみてください。

- ・すでに素晴らしい活動実績があり、横のネットワークも充実している皆様が、子どもたちにより良いお話をするために自ら学ぼうという姿勢に敬意を表します。私も「すばなし」の名手のお話を聞いてみたいと思いました。
- ・幼児の遊び相手がIT機器になりつつある現代において、語り手と聞き手が目を合わせながら想像の世界を共につむいで広げていく「すばなし」というツールは素晴らしいと思いました。すでにおはなし会の活動を重ねていらしているみなさんが、このイベントでさらに技術を深め、新しい活動の発見につながることを望みます。同時にこの会が、すでに活動されている方たちの研修の場であるだけでなく、一般の方に「おはなし」の楽しさを知ってもらい、自分も語り手になりたいという気持ちを起こさせるようなイベントになるとよいと思います。今回の講師は和歌山の語りをされるそうですが、世田谷にも昔からの民話がたくさんあると思いますので、今後はみなさんでそれらを掘り起し、語り伝える試みもぜひしてください。

< 1 - 3 いけばな華風 >

- ・いけばなという文化を広げる活動を重ねてこられ、たくさんの知見が蓄積されていることと思います。小坂邸という豊かな資源を活用し、いけばなの魅力を発信するだけでなく、小坂邸が豊かなまちづくりの拠点として機能していくためにも、ぜひ今までの枠を超える新しい取り組みにチャレンジしてほしいと思います。そのためにも、中学生、小学生のみならず幅広い感性を十分に発揮できるような企画を進めてください。
- ・今年は初めての年ですから、いろいろ大変なこともあるかと思いますが、ぜひ来年以降にもつながる活動を期待しています。

- ・グループメンバー相互の活動に留まらず、他の団体とも連携して活動の輪をさらに広げ、世田谷の自然や伝統文化に興味をもってもらえるよう工夫してください。展示花材など消耗品の使途は再考し、新たな参加者を増やす活動に助成金を活用してください。

< 1-4 まちのわごはん実行委員会 >

- ・お母さんたちの思いのつまった、家庭のごはんを届けたい――。
みなさんがそう発意した背景には、身近な暮らしの、様々な危惧があるのだと思います。「食」の時間をたのしく豊かに過ごすことができれば、きっとどんな人も生きる力を回復できるに違いありません。ささやかでも、ぜひ息の長い活動にしていってください。そのためにも活動の輪を広げていくことが大切です。たとえば、食事を提供される側も役割をもって参加できると、回を重ねるうちに、自分ごとと思って活動にかかわってくれるようになるかもしれません。そんなふうに人の輪を広げられたらいいと思います。参加者をお客さんにしない工夫を心がけてみてください。
- ・年2回の食事提供だけではなく、地域コミュニティの場となるような活動を積極的に進めてください。ワンコイン以内で支出を考えないと継続性は厳しいと思うので次年度以降に繋がる工夫をしてください。今後のご活躍を期待しております。
- ・食を通して、地域の多世代がつながる機会を提供されるということで、とても素晴らしい活動だと思います。今回の実施を通して、参加者のニーズを把握し、適切な開催頻度や規模、方法は何かを振り返る事で、よりよい地域の場づくりにつなげていただければと思います。

< 1-5 いもむし ごろごろ >

- ・親子の絆づくりとしてのわらべ歌、どのような効果を生み出すのかとても楽しみです。4回ほど会場費を計上していますが、来年度はどのように経費をまかないましょうか？ ファンドの予算が終わる＝イベントも開催しない、ではもったいない気がします。その意味で、そもそも”親子の絆は、どのような状態になったら深まったと言えるのか？”そしてそれは、”どのように検証できるのか？”も合わせて考えてみてください。

目的に向けてすべきことがクリアになってくると思います。

- ・児童館での豊富な経験を活かして、素敵な会を開催していただければと期待しています。まちづくりファンドの仲間や、様々な地域の方々との連携など、来年度以降の展開も視野に入れて取り組んでいただくとよいかと思えます。
- ・私が子どもの頃（昭和30年代）は、近所の子どもたちと道や空き地で「かごめかごめ」や「花いちもんめ」などの「わらべうたあそび」を日なが一日遊んでいました。障害があってもみなと同じようには動けない私のために自然に特別ルールが作られ、違和感なく一緒に遊んでいました。「わらべうたあそび」には人にやさしい心を育む不思議な力があると思います。この力を子どものコミュニケーション能力の発達と、孤独な子育てに悩む親の地域との絆づくりにぜひ発揮させてください。人とつながれなくて悩むもう少し上の世代の子どもへの展開や、認知症患者への応用も検討してみてください。